

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標 『HIV に対する意識啓発と予防スキル取得によってチェンマイ県の青少年の HIV 感染が減少する』 ピア教育や特別活動での意識啓発により、高等専門学校生の HIV 感染予防の知識と意識が高まり、感染予防のための行動（コンドーム使用等）を取る学生が増えている。対象校を変えて事業を行う 2 年次以降も、同様に事業目標が達成されれば、近い将来チェンマイ県内の青少年の HIV 感染の減少が期待できる。
(2) 事業内容	本事業は、タイ、チェンマイ県内全ての高等専門学校（18 校）を対象に『高等専門学校生が HIV/AIDS に関する知識を身につけ、予防意識を高め、感染予防のための行動を取る（安全な性行動、コンドームの使用、HIV 抗体検査の受診等）』、また『ピアエドゥケーターと高等専門学校の職員がピアエドゥケーター育成とピア教育の手法を身につける』ことを事業目標とした 3 年事業の 1 年目にあたる。以下は、2013 年 8 月 1 日から 2014 年 7 月 31 日までに 6 校で実施した活動について記載する。事業は計画通り行われた。 ① 高等専門学校職員への事業説明会：チェンマイ県保健局職員らと共に 6 つの高等専門学校をそれぞれ訪問し、理事長含め学校職員に本事業の説明を行い、本事業への理解と協力を得た。 ② 高等専門学校職員・高等専門学校生代表・チェンマイ県保健局職員・感染症対策室への合同事業説明会：関係者 60 名の出席の下、本事業の開会を宣言し、今後の事業の方向性を確認した。 ③ 大学生ピアエドゥケーターリフレッシュ研修：当団体が今まで育成してきた大学生ピアエドゥケーターが、最新の HIV/AIDS 情報を学び、高等専門学校のピアエドゥケーターを指導できるように研修を行った。6 大学から計 46 名のピアエドゥケーターを始め、県保健局職員、感染症対策室職員、大学職員、先輩ピアエドゥケーター等総勢 78 名が参加した。 ④ 高等専門学校生ピアエドゥケーター育成研修：HIV/AIDS に関する知識を得たうえで、ピアエドゥケーターに必要なリーダーシップ能力や活動計画書作成能力等が身につくように研修を行った。6 つの高等専門学校から計 121 名のピアエドゥケーターを始め、県保健局職員、感染症対策室職員、高等専門学校職員、大学生ピアエドゥケーター等総勢 170 名が参加した。 ⑤ 高等専門学校の職員を対象にしたピア教育のカリキュラムや教材作成のための会議開催：当団体が大学生向けに使用していた教育教材を、高等専門学校生に適した内容に変更するために話し合いを行った。大学生対象の教材よりも簡潔で分かりやすい教材を作成した。 ⑥ 学校内ネットワーク月例会議と研修後のフォローアップ：当団体職員が毎月各学校を訪問し、高等専門学校ピアエドゥケーター

	一や担当教員と共に活動案やメディア教材作成について議論し、必要なサポートを行った。 ⑦ ピア教育プログラム企画・メディア開発の発表会：高等専門学校生ピアエドゥケーター60名が独自のアイディアで企画したピア教育プログラムや、自ら作成したメディアを発表した。HIV感染予防を訴えるショートフィルムやチラシ、また学内に設置するコンドーム箱らのアイディアが発表され、県保健局職員や当団体職員がアドバイスをを行った。総勢 88 名が出席した。 ⑧ ピア教育活動：6つの高等専門学校で計 18 回のピア教育（全学生の約 22%にあたる計 3,170 名が参加）、計 7 回の特別キャンペーン（計 1,850 名参加）を実施した。また、世界エイズデーには移動検診車を使い、高等専門学校やデパートで 5 回の HIV 抗体検査（計 251 名が受診。うち 130 名が本事業の対象年齢である 14～19 歳）を実施した。 ⑨ 各学校に「ピア教育ルーム」を開設：6つの高等専門学校にピア教育ルームを開設し、学校職員とピアエドゥケーターが中心となり運営できるように支援を行った。学生から性に関する相談を受けるカウンセリングルームとして、またピアエドゥケーター間の打ち合わせ場所として使用されている。 ⑩ ピア教育経験を積んだ高等専門学校生ピアエドゥケーターによる後輩ピアエドゥケーター育成研修：6つの高等専門学校から計 122 名の後輩ピアエドゥケーターを育成した。当団体による支援がなくなる次年度以降も、この後輩ピアエドゥケーターと学校職員が中心となり活動を継続していく。 ⑪ 四半期会議、中間会議、年次評価会議の開催：四半期会議と中間会議では、これまでの活動の成果と課題、今後の計画等を話し合った。年次評価会議では、1 年間の活動成果のまとめと事業終了後もいかに活動を継続していくかについて話し合った。
（３）達成された成果	まず参加学生数であるが、高等専門学校生ピアエドゥケーターが 243 人（後輩含む）、ピア教育 3,170 人、特別キャンペーン 1,850 人で合計 5,263 人であった。目標であった受益者数 2,940 人を大幅に超えた数となった。 申請書に記載した 6 つの成果指標の達成度を以下に記す。 『指標 1. ピア教育に参加した高等専門学校生の予防意識チェックリスト・HIV に関する知識テストの結果が少なくとも 70 点以上になる。』⇒達成：100%が 70 点以上 事業終了時の無作為抽出による「HIV に関する知識と予防意識」を測るアンケートの結果（表 1 を参照）、ピア教育に参加した学生 120 名（全ピア教育受講者の 3.7%にあたる）全員が 70 点以上を獲得した。このグループの平均点は 93 点であり、目標を達成していることが確認できた。

表 1 : HIV に関する知識と予防意識を測るアンケート調査結果

	ピア教育 受講者 (n=120 名)	ピア教育 非受講者 (n=120 名)
70 点以上を獲得した	100%	50%
平均点	93 点	62 点

『指標 2. ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、直近の性交渉において HIV 感染を予防するための行動（安全な性交渉のための話し合いをする・コンドーム使用）をとる割合が事業実施前より 15%増える。』 ⇒達成：平均 60%の差が出た

「HIV 感染を予防するための行動」として、以下の 3 点を定義した。

1. 性交渉のパートナーの数を限定した。
2. 直近の性交渉時にコンドームの使用について話し合った。
3. 直近の性交渉時に実際にコンドームを使用した。

表 2 は前出の無作為抽出のアンケートの参加者のうち性交渉があった学生のみ結果を示している。事業実施前にベースライン調査ができなかったため、事業終了時にピア教育を受講した学生と受講していない学生を比較した。結果は、ピア教育を受講した学生の方が、受講していない学生よりも HIV 感染を予防するための上記 3 つの行動を取る人の割合が多く、その差はいずれも 15%以上であった。ピア教育非受講者には今のところ本事業の影響がないと考えられるが、今後徐々に同校のピアエデュケーターの活動を通して、正の影響が広まるものと期待する。

表 2: HIV 感染を予防するための行動を取ったか否かを測るアンケート調査結果

	ピア教育 受講者 (n=67 名)	ピア教育 非受講者 (n=60 名)	2 者の差 (受講者- 非受講者)
性交渉のパートナーの数を 限定した	91%	33%	58%
直近の性交渉時にコンドーム の使用について話し合った	97%	25%	72%
直近の性交渉時に実際に コンドームを使用した	73%	23%	50%

『指標 3. ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、HIV 抗体検査を受診したと答える人の割合が事業実施前より 10%増える。』

⇒達成：51%の差が出た

指標 2 と同様に実施したアンケート調査の結果、ピア教育を受けた学生のうち 69%が HIV 抗体検査を受診したと答えたのに対し、受け

ていない学生では 18%しか検査を受診しなかった。その差は 51%であった。(これには、本事業外で検査を受けた人の数も含む。)

表 3 : HIV 抗体検査受診の有無に関するアンケート調査結果

	ピア教育 受講者 (n=67 名)	ピア教育 非受講者 (n=60 名)	2 者の差 (受講者- 非受講者)
HIV 抗体検査を受診した	69%	18%	51%

『指標 4. 高等専門学校生ピアエデュケーターの HIV/STI 知識テスト (目標値 : 9 割の学生が 90 点以上)、リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト結果 (目標値 : 70 点以上) が事業開始前より向上し、ピア教育を企画・実施できる (目標値 : 最終ピア教育が 100%学生のみで自立して実施し、かつ 100%の学校のピアエデュケーターが次年度のチェンマイ保健局に対する予算申請書を作成する)。』

HIV/STI 知識テスト ⇒達成 : 100%が 90 点以上

高等専門学校生ピアエデュケーターの育成研修後に実施した知識テストでは、90 点以上を獲得した学生が 79%と、目標に未達であった。その後ピアエデュケーターが実際にピア教育を行う中で知識を深め、事業終了時に再実施したテストでは、100%のピアエデュケーターが 100 点を獲得し指標を達成した。

リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト

⇒達成 : 100%が 70 点以上

事業終了直前に実施したチェックリストの結果、100%のピアエデュケーターが 70 点以上を達成し、平均点はピア教育を実施するのに必要なリーダーシップ能力とライフスキル (具体的には、公的な場で自信を持って話をする能力や、他の学生との適切なコミュニケーション能力等) を有していることが分かる。

ピア教育の企画・実施能力

⇒達成 : 100%学生のみで実施し、次年度の予算申請書を作成当団体職員と学校職員が、各校での最終ピア教育が 100%学生のみで実施できていることを確認した。また、6 校全ての学校のピアエデュケーターが、チェンマイ県保健局に対し次年度の予算を申請し、1 校につき 10,000 バーツ (約 33,800 円) の予算がつく見通しである。また、4 つの学校側からも、5,000-8,000 バーツ (約 16,900-27,040 円) の予算を獲得できる予定である。これらの予算は、継続的なピア教育活動費やピア教育ルームの運営費として使用される。

『指標 5. 高等専門学校職員が 70%以上の活動に参加し、ピア教育手法の知識と実施支援スキルを身につける。』

⇒達成 : 100%の活動に参加し、知識とスキルを身につけた

	各学校から 1 名以上の職員が、ピア教育や特別活動等の活動に 100% 参加した。当団体職員が積極的に活動への参加を呼び掛けたり、会議で 6 校が同時に集まる機会を設けたことにより、本事業への参加意欲が高まったためと考えられる。これらの活動を通し、職員はピア教育の知識と実施支援スキルを身につけ、適切に自信を持ってピアエドゥケーターを指導できるようになった。事業終了時には、職員が今後も主体的に活動を継続していくことを宣言した。 『指標 6. 学生の感染予防行動をサポートする学生間と関係者間とのネットワークが構築され、高等専門学校担当職員が一人につき一人、すべてのネットワーク会議に参加する。』 ⇒達成：ネットワークが構築され活用された 学生間と関係者間とのネットワーク構築状況を調べるため、ピアエドゥケーター 30 名を対象に、事業終了前にアンケート調査を行った。その結果、100%のピアエドゥケーターがチェンマイ県保健局、感染症対策室等保健機関のコンタクトリストを所持しており、いつでも連絡できる状態であることが分かった。実際に 80%のピアエドゥケーターがこのネットワークを活用し、保健機関や関係者からアドバイスをもらっていた。また、ピアエドゥケーター間では、学校の枠を超えてソーシャルネットワーク等を使った交流が盛んに行われ、本事業外でも市内の歩行者天国で HIV 感染予防を訴えるイベントを協同実施することもあった。高等専門学校担当職員に関しては、各学校から 1 名以上の職員が全てのネットワーク会議に参加し、交流を深めた。
(4) 持続発展性	(ア) 事業の後半に、高等専門学校生ピアエドゥケーターによる後輩ピアエドゥケーター育成研修を実施したことで、次年度以降も継続して活動する新たなピアエドゥケーターを確保することができた。学生を対象にしたピア教育事業の難しさは、毎年学生が入れ替わるため、活動の核となるピアエドゥケーターを新たに育成し続けなければならない点であった。しかし、本事業を通して学校職員もピアエドゥケーターの育成方法を習得したため、今後も毎年新たなピアエドゥケーターが育成されることが期待される。 (イ) チェンマイ県保健局、感染症対策室、各学校間で新たに HIV/AIDS 予防に関するネットワークが構築された。今後、学校側から県保健局や感染症対策室に、ピアエドゥケーター育成時の講師養成をすることが容易になる。また、ピア教育ルームを訪れた学生に専門家の支援が必要と判断された場合にも、専門機関に繋ぐことが可能になった。 (ウ) ピア教育ルームは、学校職員とピアエドゥケーターが中心となり管理していく。部屋の鍵や備品は学校職員が責任者となり管理している。また、ピアエドゥケーター間でシフトを組み、学生が相談に訪れた際に、必ず一人はピアエドゥケーターがいるようにしている。 (エ) 全 6 つの高等専門学校のピアエドゥケーターが、次年度の活

	動予算をチェンマイ県保健局に申請した結果、各学校で年間 10,000 バーツ（約 33,800 円）が県保健局から支給される予定である。これは、本事業によりチェンマイ県保健局が高等専門学校での HIV/AIDS 予防教育の重要性を認識したこと、また当団体が活動予算を継続的に確保するよう働きかけた結果であると考える。
--	---